

## 老年看護学実習

|              |                    |        |           |
|--------------|--------------------|--------|-----------|
| 責任者・コーディネーター | 地域包括ケア講座 野里 同 准教授  |        |           |
| 担当講座・学科(分野)  | 地域包括ケア講座、共通基盤看護学講座 |        |           |
| 対象学年         | 4                  | 区分・時間数 | 実習 150 時間 |
| 期 間          | 前期                 |        |           |
| 単 位 数        | 4 単位               |        |           |

### ・学修方針（講義概要等）

老年期にある対象および家族を総合的にとらえ看護を展開する。看護過程の展開では、アセスメント能力・問題解決能力を身につけ、個々に応じた看護を実践するとともにセルフケア能力の向上を図る看護を習得する。さらに、生活の場が移行し療養が必要になった高齢者を包括的に理解し、対象および家族に必要な看護を実践する能力を習得する。医療および福祉の連携の必要性を理解し、その中の看護師の役割およびチームアプローチの必要性を学び、自立の援助や患者の QOL の向上を図る知識・技術を身に付ける。

### ・教育成果（アウトカム）

病院実習では、一人の患者を受け持ち看護展開することによって、高齢者の生活史や価値観の多様性を理解し、患者のもてる力に視点をおいた看護を展開する能力を養うことができる。また、慢性疾患や障害がありながらも生活している高齢者の生活機能の観点からアセスメントすることで、高齢者がどのような生活を望んでいるのかを理解し、生活に即した目標志向型の看護を実践することができる。施設実習では、地域で生活している高齢者との関わりや生活援助を実施することによって高齢者が生きてきた時代背景や生活史から「その人らしさ」の理解を深めることができる。また、疾患や身体機能・認知機能の加齢による変化を把握することにより、それらが生活にどのように影響しているか生活機能の視点で考えることができる。施設の役割・機能を学ぶことによって医療および保健・福祉の必要性やその中の看護師の役割を学び高齢者の QOL 向上のための支援を身につけることができる。

#### 【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマ・ポリシー： 1, 2, 3, 4, 5, 7, 8

### ・到達目標（SBO）

1. 高齢者を疾患や障害を有している生活者として幅広く捉え、目標志向型を用いた看護過程の展開ができる。
2. 老年期にある対象の生活史や価値観を理解し、高齢者を尊重する態度を身につけることができる。
3. 高齢者に対する看護および他職種との連携について理解し、主体的に学習に臨むことができる。
4. 人生の統合の時期にある高齢者の看護に対する自己の考えを深め、言語化することができる。

5. 介護保険における社会資源の意義や介護老人保健施設の機能を学び、老健における看護師の役割を説明できる。
6. 加齢や障害による身体機能・認知機能の変化に応じた援助の方法を見出し実践することができる。
7. 地域で生活する高齢者の QOL を支える看護について考えを深め、言語化することができる。

・ 授業日程

【実習】

| 日程                      | 講座(学科)<br>担当教員  | 授業内容/到達目標   |
|-------------------------|---|---|
| 各グループの実習期間は、実習要項等に記載する。 | 地域包括ケア講座<br>野里 同 准教授<br>館向 真紀 特任講師<br>菊池 佑弥 助教<br>共通基盤看護学講座<br>看護学部教員 | <p>病院実習（3 週間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人の患者を受け持ち目標志向型の看護過程を展開する。</li> <li>・ 個々の健康レベルに応じた看護を実践できる</li> </ul> <p>（詳細は、実習要項を参照）</p> <p>施設実習（1 週間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多くの高齢者とふれあい、生活に視点をおいた援助とサービスの活用を実際に見ることで、高齢者の支援のあり方を深めることができる。</li> </ul> <p>（詳細は、実習要項を参照）</p> |

・ 教科書・参考書等

教：教科書      参：参考書      推：推薦図書

|   | 書籍名                  | 著者名     | 発行所    | 発行年  |
|---|----------------------|---------|--------|------|
| 教 | 高齢者の健康と障害 第 6 版      | 堀内 ふき 他 | メディカ出版 | 2021 |
| 教 | 高齢者看護の実践 第 5 版       | 堀内 ふき 他 | メディカ出版 | 2021 |
| 参 | 生活機能からみた老年看護過程 第 3 版 | 山田 律子 他 | 医学書院   | 2019 |

・ 成績評価方法

実習記録・実習態度など評価表に基づき点数化し病院実習 70%、施設実習 30%とし総合評価する

・特記事項・その他

**【事前事後学修の具体的内容及び時間】**

実習する病院・施設の役割・機能について事前学修をする。また、学内のオリエンテーション時に受け持ち患者を紹介された場合は、疾患・治療・看護について事前学修を行い、実習がスムーズに行えるようにする。最低でも1時間以上は行う。

**【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】**

実習期間中は、実習記録の進捗状況や実習目標の到達度、また、学生が困っていることなど教員と面談しながら進める。そのなかで、知識・技術・態度に関するフィードバックを行いながら、自己の課題に取り組む。

また、日々のカンファレンスでは、患者との関りの中での疑問点・ケアについての悩みなどに関して問題解決していく。

**【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】**

看護師（別表3）：臨地実習 専門分野Ⅱ 老年看護学

・授業に使用する機器・器具と使用目的

| 使用区分       | 機器・器具の名称 | 台数 | 使用目的 |
|------------|----------|----|------|
| 実習要項に記載する。 |          |    |      |